



Library Liébana

2025年5月度展示内容のお知らせ

【今月の展示写本】

(1) ベアトウス黙示録写本



(マドリド写本)
10世紀半ば
又は前半



(シロス写本)
1091年(写字)
1109年(挿画)



(トリノ写本)
12世紀
第1四半期?



(ファクドゥス写本)
1047年頃

(2) 15世紀時祷書写本



(Catherine of Cleves時祷書)
1440年頃



(ヴィスコンティ時祷書)
1428年以降完

ファクシミリ本でみるスペイン黙示録の世界 中世彩色写本を紹介

ファクシミリ本とは：
オリジナル写本の大きさや色を再現。
特に羊皮紙の厚みやしわも忠実に
再現した複製本も多数展示しています。

愛知県豊田市西町5丁目5
VITS豊田タウン B1F
(西町5丁目北交差点の
外側階段を降りて下さい)
10:00~16:00

5月の開館日(予定) 水・木・金・日曜日
(HP、インスタで確認下さい)



Google Map



H.P.



Instagram



2025年5月						
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
1 (休)	2 (休)	3 13:00 16:00	4 13:00 16:00	5 2	6 3	7 4
8 名古屋北区清水4 F BOOK BOOK TWS	9 (休)	10 13:00 16:00	11 10:00 16:00	12 10:00 16:00	13 10:00 16:00	14 10:00 16:00
15 12 岡崎 弘道館 豊田 MAYUTWS	16 (休)	17 13:00 16:00	18 10:00 16:00	19 10:00 16:00	20 10:00 16:00	21 10:00 16:00
22 19 (休)	23 (休)	24 13:00 16:00	25 13:00 16:00	26 13:00 16:00	27 13:00 16:00	28 13:00 16:00
29 (休)	30 (休)	31 13:00 16:00	1 13:00 16:00	2 13:00 16:00	3 13:00 16:00	4 13:00 16:00

ベアトウスの黙示録註解書写本について

中世初期のイベリア半島北部アストゥリアス地方のリエバナにある修道院の修道士、ベアトウス(ベアトBeato ? -798)が776年に「ヨハネの黙示録註解書」を編纂しました。原本は既に存在していませんが、非常に人気を博し、10世紀から12世紀にかけて多くの写本がイベリア半島はもとよりフランスやイタリアなどで制作されました。ほとんどの写本には、彩色された挿絵が多数描かれており、その鮮やかな色使いと想像力豊かなインパクトの強い挿絵が後世にながく影響を与えてきました。

これまでに発見されたベアトウス写本のうち、挿絵入りのものは29 写本あり、そのうち完本の写本は22写本、断簡の写本が7写本あります。

本ライブラリーには完本22写本のうち20写本のファクシミリ版があります。ファクシミリ版の中には羊皮紙の厚みやシワ・汚れ・破れ・落書きなどをそのまま再現した精巧なものもあります。

今月の展示写本

- (1) ベアトウス黙示録写本 (①②③④)
- (2) 15世紀の時祷書(⑤⑥)

①【ベアトウス黙示録註解書：マドリード写本】

10世紀前半に制作された最初期のベアトウス写本
挿絵が切り取られている箇所が多く、当初60点以上あったと考えられる挿絵が29点の絵図しか残っていない。

②【ベアトウス黙示録註解書：トリノ写本】

本写本は、975年に製作されたベアトウス写本ジローナ本を、12世紀のカタルーニャで写したものとみられる。

ただし挿絵は12世紀風にアレンジされている。
(久米順子「スペイン中世写本の楽しみ 慶應義塾所蔵資料を中心に 展示資料解説」より)

106点の細密画(ベアトウス注釈書に93点、ダニエル書に13点)が収められており、挿画師はジローナ写本の構図を踏襲しているが、色彩や衣服の描き方に関しては、いわゆるモサラベ様式ではなく同時代にふさわしいロマネスク様式に移行している。

③【ベアトウス黙示録註解書：シロス写本】

サン・スヴェール写本ではすでにカロリング小文字が使用されていたのに対し、シロス写本では依然として西ゴート書体でテキストが書かれていました。さらに12世紀初頭となっても、これまでより一段と精緻な図形化したモサラベ様式の挿絵が描かれています。挿絵の地には江戸小紋のような細かな梅花文がちりばめられ、人体も山岳も動物も完全に扁平で均質な文様世界として描かれています。最後のモサラベ作品といわれるゆえんです。

(「ロマネスク美術とその周辺」辻佐保子 より)

サントドミンゴ デ シロス修道院で制作された本写本は、修道士ムーニョとドミニコが写字を、ペトロスが挿画を行ったことが書かれています。挿絵をすべて書き終えたのは、写字が終わってから18年後の1109年でした。

④【ベアトウス黙示録註解書：ファクンドウス写本】

13世紀に制作されたラス ウェルガス写本を除くと、修道院ではなく王室の依頼で制作された唯一のベアトウス写本です。

大きさは他の写本と比較しそれほど大きくはありませんが、全312葉と一番大部な写本になっています。また、金・銀・紫がふんだんに使用され、豪華な挿絵が98点描かれています。

⑤【Catherine of Cleves時祷書】

この写本は1440年頃にオランダの匿名の芸術家によって作成されたようです。周縁部の装飾や挿絵にはゴシック様式の華やかさと同時に、不思議なものにのびています。たとえば《聖バルトロメオ》1では、周縁部にプレツェルのようなお菓子が取り囲んでいます。しかしここで描かれている聖バルトロメオは、皮剥ぎの刑で殉教者になった象徴として、手にナイフを持っています。お菓子との取り合わせは何とも不釣り合いであり、謎です。(「世界で最も美しい装飾写本」田中久美子より)

⑥【ヴィスコンティ時祷書】

この写本はミラノ公ジャン・ガレアツォ・ヴィスコンティ(1351-1402)の注文で、ジョヴァンニーニョ・デ・グラッシとベルベッロ・ダ・パヴィアという2人の画家が手掛けたものです。

民間の裕福な人のために写本が作られた時代の、個人的な時祷書の典型的な例です。

独特の装飾に彩られたイニシアル(ヒストリアスインシャル*)と周縁部を埋め尽くす美しい装飾が特徴的です。また、鹿や犬といった動物も、観察に基づいて(「世界で最も美しい装飾写本」田中久美子より)